

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社フィールズ

② 施設・事業所情報

名称：アスク本牧保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：松原 久美子	定員（利用人数）：60名 （利用者：64名）
所在地：〒231-0827 横浜市中区本牧和田12-23	
TEL：045-628-1486	ホームページ： https://www.nihonhoiku.co.jp/blog/honmoku/
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2015年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社 日本保育サービス	
職員数	常勤職員：13名 非常勤職員：8名
専門職員	園長 1名 主任 1名
	保育士 11名 栄養士 1名
	保育補助 1名 調理員 4名
	事務員 1名
施設・設備の概要	保育室 6室 トイレ 4カ所
	調理室/厨房 1カ所 沐浴室・調乳室
	相談室 1室 事務室 1室
	職員休憩室 1室 エントランスホール
	園庭：有 (1階・3階屋上園庭)

③ 理念・基本方針

<p>【保育理念】 「未来（あす）を生きる力を培う」 ・自分らしく生きる道を歩み、どんな時代にも対応できる資質と能力を培います。 ・1人1人に心をかけ、愛情を注ぎ、成長に合わせたきめ細やかな保育を行なうことで、変化の激しいこれからの社会を生き抜くための“生涯にわたる生きる力の基礎”を育みます。</p> <p>【保育方針】 「自ら伸びようとする力を支えます」 ・子どもが本来持っている“育つ力”に注目し、周囲の環境に興味・関心を持って自ら関わろうとする意欲を支え、自信を育みます。 「五感を養って感性を豊かにします」 ・身近なものに関わり、五感を使った実体験を積み重ねることで、豊かな感性を高め、思考力・想像力を育みます。 「後伸びする力を育みます」 ・子どものありのままの姿を受け止め、共感し接することで、探求しやり抜く力、感情をコントロールする力、人と関わる力を育みます。</p> <p>【園目標】 「あかるく げんきに のびのびと」</p>

・様々な経験を通して、子ども達が自分らしく、のびのびと自己表現ができるように、そして安心して健康に楽しく過ごせるように、1人1人の気持ちに寄り添った保育を行ないます。

④施設・事業所の特徴的な取組

園は最寄り駅からバスで10分程度、バス停目の前の閑静な住宅街にあります。近隣には緑豊かな公園が多数あり、自然環境に恵まれています。主に利用する公園までの道のりは、歩道が広く、車通りが少ない比較的 안전한環境です。天気の良い日の午前中は積極的に戸外活動を行ない、元気に体を動かして遊んでいます。

❖キャストレッスン

英語、体操、リトミック、ダンス（幼児のみ）のキャストレッスンをそれぞれ月に2回ずつ実施しています。

❖食農活動

1階園庭の花壇を利用したり、ベランダに置いたプランターで食農活動を行なっています。苗植え、水やり、観察、収穫の体験をし、収穫した野菜はクッキングをしたり、調理室で給食に調理してもらったりして、自分で育てた野菜を自分で食べる経験をしています。また、中区の「藍プロジェクト」に賛同し、藍を種から育てて染め物体験を行ないました。

❖コーナーの充実

子ども達が遊びを選び、遊びこむ経験を大切にするため、コーナーを充実させています。環境設定の見直しは季節や子ども達の発達を踏まえて、定期的に行なっています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和4年8月1日（契約日）～ 令和5年4月26日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	3回（2017年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

1) 理念を理解した保育展開への取組が行われています

一部改訂された理念の理解と浸透を図るため、園長作成の「振り返りシート」で職員の保育実践、保育観を把握し、園長・職員共に学ぶ園内学習を行っています。理念を的確に捉えている職員の言動を掘り下げ、年齢別縦の保育活動や活動内容の意味を知り、理念の概念と反映について話し合う大切な学びの場となっています。毎月行うこの「振り返りシート」は、理念に向けた自らの「保育」を振り返る機会となり、職員連携のもと、建設的に、着実に保育の質の向上に繋がっています。

2) 異年齢保育から社会性を育む保育を行っています

縦割り保育を計画的に取り入れています。朝・夕の合同保育による関わりではなく、園では4歳児5歳児が日常生活を共にするという「ねらい」を持ったうえでの計画的な合同保育を行っています。きょうだいの少ない家庭が多い中、年上の子どもが年下の子どもの面倒をみたり、お世話をすることで責任感や優しさが育まれています。年下の子どもは年上の子の行動を真似てみたり、憧れをもち目標とするなど、双方で育ちあう環境があります。日常から学ぶことは多く、その経験から効果的に社会性を育てています。

3) 「中・長期ビジョン」の再構築が望まれます

「中・長期ビジョン」が明確ではありません。数値目標、収支計画を明らかにした単年度の「戦略シート（単年度の計画・報告）」から理念達成に向けたプロセスとして

「中・長期ビジョン」の再構築が望まれます。また、中・長期ビジョンは、策定時のまま固定した内容ではなく、経営状況、社会情勢などをもとに理念実現に向けて見直していくことが望まれます。

4)職員も関わった「戦略シート」の策定が望まれます

「戦略シート」は、人材育成とする職員の目標管理シート、保護者のアンケート、保育内容の見直しなど、総括的な評価結果を記載し、年度末にまとめ、次年度に反映しています。しかし、職員は保育内容についての理解はしていますが、その他運営等に関する把握は十分ではないとしています。今後は、職員も共に園の運営全体を把握し、ベクトルを合わせたうえでの「戦略シート」策定が望まれます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

第三者評価を受審したことにより、保育や運営を見直すきっかけとなり、今後の改善点が明らかになりました。同時に自園の良い点についても評価していただき、改めて気付ける機会となりましたので、良い点については引き続き継続していきたいです。

今後の課題は中長期ビジョンの再構築です。保育に偏らず、運営面においても中長期にわたるビジョンを明確にし、環境の変化等に柔軟に対応するため、ローリング方式で理念の実現に向けた計画を策定していきたいと思えます。

今回、理念を理解した保育展開の取り組みについて、良い評価をいただきました。良い評価をいただいた点は自園の長所としてとらえ、さらなる向上を目指し、今後も継続してまいります。

これからも職員が働きやすく、保育の仕事にやりがいと誇りを持って取り組める職場を目指します。

また、利用者のニーズにしっかり耳を傾け、変化の激しい現代の時流や環境に沿った、質の高い保育を提供できるように努めてまいります。

最後に、受審にあたりご尽力いただきました評価機関の皆様、ご多忙にも関わらず、利用者調査にご協力いただきました保護者の皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり